

令和5年度 主要事業評価シート

① 基本事項	計画コード	22017		事業名	都市計画道路整備事業(和賀白川線)			
	事業手法	☐ 直営 ☒ 一部委託 ☐ 全部委託 ☐ 補助等 ☐ その他()						
	施策体系	施策の大綱	01:快適さを支える生活基盤の向上			予算科目	会計	01:一般会計
		基本施策	04:道路の保全・整備				款	08:土木費
		施策の方向	01:幹線道路の整備				項	02:道路橋梁費
		重点プロジェクト	-				目	03:道路新設改良費
事業期間	H 17 年度 ~ R 11 年度		主な根拠法令等	道路法、道路構造令				

評価分類	B1
------	----

担当部署	
部	建設部
課	土木課 道路整備G

② 事業概要 (P)	事業の必要性(経緯・背景等)	事業の対象(誰に、何に対して)	事業の目的(どのような状態にしたいのか)	事業の内容(どのような取組を行うのか)
	当路線は、市内環状線として位置付けられており、環状線は本市における産業発展と市民生活の根幹を担う重要な道路ネットワークである。当路線が開通することで、郊外から市街地への交通分散誘導、周辺地域間での直接移動、災害時や代替路線の機能の充実が図れる。	市民及び来訪者	都市機能集約拠点の利便性向上及び市街地の円滑な交通処理を行うことにより、市民及び来訪者の安全性と利便性の向上を図る。	市道と和賀白川線の国道1号から北側区間と市道住山11号線を含めた区間を整備する。 (北側区間) ・幅員9.5m～12m(2車線、片側・両側歩道) ・延長L＝800m

③ 事業の実施状況 (P・D)	年度	令和4年度		令和5年度		令和6年度		令和7年度		
	事業計画	○用地測量		○用地交渉(土地鑑定・補償鑑定) ○用地買収 ○用地測量(排水路)		○用地買収 ○測量設計(排水路)		○用地買収(本線+排水路) ○道路改良工事		
	活動実績 (計画通り実施できたか)	両側歩道から片側歩道へ道路計画を見直したことから、実施済みである用地測量の結果を基に、測量図の修正を実施した。これにより、来年度以降に計画している用地買収に必要な測量図が作成できた。		用地買収に必要な土地鑑定業務と補償鑑定業務が完了した。また、地権者との用地交渉を開始した。 流末の排水路については、次年度の測量設計に向け、排水路の隣接者と用地境界の立ち合いを実施した。 用地買収については年度完了が見込めなかったため、やむを得ず翌年度に繰り越した。						
	計画 予 算 額	事業費	12,100千円	81,176千円	16,900千円	7,158千円	77,000千円		148,500千円	
		国・県支出金	6,050千円	34,504千円	2,950千円	1,479千円	32,500千円		62,500千円	
		地方債	5,400千円	31,000千円	2,700千円	900千円	29,200千円		56,200千円	
		その他		0千円		0千円				
		一般財源	650千円	15,672千円	11,250千円	4,779千円	15,300千円		29,800千円	
	決算 額	事業費		79,255千円		7,093千円				
		国・県支出金		34,504千円		1,479千円				
地方債			30,100千円		900千円					
その他			0千円							
一般財源			14,651千円		4,714千円					
①期間内計画額(R4-7)		254,500千円		②期間外計画額(R8-)		365,700千円		①+②総計画額	620,200千円	

(令和5年度予算額の内訳)

前年度からの繰越額	2,100千円
当年度の最終予算額	11,573千円
次年度への繰越額	6,515千円

④ 指標 (C)	指標名	説明等	種別	単位	区分	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
	整備進捗率	実施済み事業費/総事業費	成果	%	計画値	78	79	82	87
					実績値	78	81		
					計画値				
					実績値				
					計画値				
					実績値				

⑤ 進捗 度合 (C)	評価理由
A	用地買収に必要な土地鑑定業務と補償鑑定業務が完了し、地権者との用地交渉を開始することができた。また、流末の排水路について、隣接者との用地境界の立ち合いを実施し、次年度の測量設計に向け事業を進めることができた。なお、用地買収については、更なる事業進捗を図るため、令和6年度実施予定であったものを1年前倒して実施することとしていたものの、年度内完了が見込めず次年度に繰り越した。
	計画どおり進んでいる

事業の対象	事業の目的
市民及び来訪者	都市機能集約拠点の利便性向上及び市街地の円滑な交通処理を行うことにより、市民及び来訪者の安全性と利便性の向上を図る。

(再掲)

⑥ 課題 (C)	事業の進捗度合を踏まえた課題事項
	近年、国の予算配分が低いことから、事業進捗を図るためには、予算を確保する手段を検討していかなければならない。(積極的な補正予算の要求、同事業内での予算流用)

⑦ 事業 の展 開 (A)	方向性	
	継続(現状維持) 現状どおり事業を継続する	
	改善・見直し内容	
	<table><tr><td>令和6年度で対応する(した)もの 建設コスト削減の観点からも公共残土の利用を考慮し、効率的な施工が図られるよう用地買収を進める。</td><td>令和7年度以降で対応するもの 近年、国の予算配分が低いことから、事業進捗を図るためには、予算を確保する手段を検討していかなければならない。(積極的な補正予算の要求、同事業内での予算流用)</td></tr></table>	令和6年度で対応する(した)もの 建設コスト削減の観点からも公共残土の利用を考慮し、効率的な施工が図られるよう用地買収を進める。
令和6年度で対応する(した)もの 建設コスト削減の観点からも公共残土の利用を考慮し、効率的な施工が図られるよう用地買収を進める。	令和7年度以降で対応するもの 近年、国の予算配分が低いことから、事業進捗を図るためには、予算を確保する手段を検討していかなければならない。(積極的な補正予算の要求、同事業内での予算流用)	

	令和4年度	令和5年度	令和6年度	令和7年度
進捗度合		A		
事業展開	継続(現状維持)	継続(現状維持)		

【履歴】

1次評価者	建設部 土木課 道路整備GL 橋本 了
最終評価者	建設部 土木課 課長 水越 洋光